

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400068		
法人名	社会福祉法人 翠明会		
事業所名	グループホーム 敬天		
所在地	大分県日田市天瀬町女子畑234番地1		
自己評価作成日	平成25年2月5日	評価結果市町村受理日	平成25年4月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成25年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日を穏やかに、笑顔で過ごして頂けるよう、お一人おひとりの思いを理解し、受けとめるよう努力している。
 ・利用者がそれぞれの特技を活かし、発揮出来る環境作りを行っている。
 ・地域の行事や祭り、併設の特養や系列の施設の行事にも参加し、交流を楽しむ機会を多くしている。
 ・利用者同志で話し合い、誘い合い、食事の準備やゲーム等が出来ている。
 ・自然に恵まれたのどかな環境で、季節を感じながらの散歩や、野菜作り、干し柿や漬物、椎茸の栽培などを一緒に行っている。
 ・ご利用者と職員の会話も多く、穏やかでのんびりとした雰囲気でも過ごしていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者同士、利用者職員が、ゆったりと穏やかに過ごす時を大切に、日常の支援が行われている。
 ・事業所全体で、利用者の希望や生活パターンを把握し、理念に表現された「その人らしい暮らし」支援に繋げている。
 ・利用者情報を同一敷地内の施設職員と共有し、利用者の自由な屋外散策の見守りが行われている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に理念を復唱し、実践に取り組んでいる。	利用者の思いを共有し、地域や様々な協力者と共に、理念に表現された「その人らしい暮らし」の実践に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校や幼稚園との交流、市の行事への参加、老人会の友愛訪問、月1回の地域の障害者施設との交流喫茶等を行っている。併設の特養に出かけ、顔なじみの関係が出来ている。	近隣に人家や商店のない立地条件のため、同一敷地内に建つ特別養護老人ホームの行事やサービスの利用、地域団体との交流を積極的に行い、利用者支援に活かしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	秋祭りや家族会、誕生会等の行事で、地域のボランティアに歌やおどりの参加をお願いし、利用者とはふれあう機会を作っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や利用者の状況等を報告し、今後の予定や地域の行事、避難訓練について、行政や地域代表、家族からの意見や提案、要望を話し合っている。自治会長からの提案で、地元消防団との合同避難訓練を毎年行っている。	運営推進会議は、様々な職種、役割を持つメンバーと複数の利用者家族が参加し、利用者や事業所行事の写真入りの分かりやすい資料が準備され、定期的に行われている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議参加時に意見や提案をもらっている。わからない時は相談し、助言をもらっている。	運営推進会議に市介護保険課と包括支援センターの職員が出席している。市の介護保険課には、介護保険の質問や相談をし、助言を受けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設事業所との共有の「身体拘束廃止指針」を定め、施設内研修や、ミーティング等で常に話し合い、ほぼ理解出来ている。施錠は夜間のみ、ベッド柵も起き上がりに必要な最小限にしている。利用者とも話し合っている。	利用者の見守りについて、職員間で話し合い、統一した対応、声掛けに努め、安全に配慮した自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や、ミーティング等で話し合い、虐待の正しい理解に努めている。		

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、計画作成担当者が研修を受けている。必要時には家族と話し合いながら、活用できるようにしていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書に沿って説明し、理解して頂いた上で契約を行っている。変更がある場合は、その都度説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日々の会話の中での要望や思い、運営推進会議や家族会、また家族の面会時の要望や意見を、ミーティング等で話し合い取り組んで行くようにしている。	運営推進会議の案内を全家族に行い、毎回複数の家族が出席している。また、年2回開かれる家族会は、家族の参加しやすい週末に企画し、利用者のほとんどの家族の参加が得られている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議やミーティング等で、改善に向けて話し合うようにしている。	事業所運営、利用者支援など、様々な課題を話し合い、実践に繋げている。今年度、職員の勤務形態を話し合い、より良い利用者支援や働きやすい環境づくりに活かしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がそれぞれ得意な事を仕事で発揮出来る環境にしている。勤務時間や、出勤時間の変更など話し合って改善している。個人のロッカーは設置したが、独立した休憩室の設置は出来ていない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、法人関連病院、併設特養との合同研修、グループホーム連絡協議会での研修、交流研修の機会を設けて、介護力の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県老社協グループホーム小委員会や日田玖珠連絡協議会で情報交換や施設交流研修、研修内容に付いて話し合っている。他施設の情報、アイデアなど改善すべき所を取り入れる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の希望や要望をよく聞き、安心して暮らせる環境作りに努めている。日々の会話の中での情報や、様子の変化を職員間で話し合い共有している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の思いや、家族の希望、要望を理解し、支援方法を面会時や電話で話し合い、家族の心配や利用者の不安の解消に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に聞き取りをし、利用者に適切と思われるサービスを家族、担当ケアマネ、主治医、関係職員と話し合っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に料理をし、食事と同じものを食べ、一緒にゲームをし、同じソファーに座ってテレビを観ている。会話も多く、知らないことを教えてもらっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出、冠婚葬祭、外泊、病院受診などできるだけお願いしている。電話で近況報告をする利用者もいる。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域老人会や婦人会の友愛訪問や、友人の面会があり、趣味活動で活躍していた頃の仲間との交流の機会を作っている。前に利用していた施設との交流も行っている。	入居前の地域行事や施設行事に積極的に参加している。また、同一敷地内の特別養護老人ホームで、旧知の大正琴サークルの演奏会にボランティアの一員として参加する利用者もいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声をかけ合い、誘い合い、散歩や食事の準備、共通の趣味などを利用者同士で行うことが多い。利用者間の会話も多く、職員は声をかけ、見守っている。		

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良で入院、退所した利用者がホームに遊びに来たり、併設特養に入所した利用者には会う度に皆で声をかけている。他施設に入所した利用者には会いに行くこともある。必要に応じて情報提供を行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子の観察や訴えをよく聞き、職員、利用者によく話し合い、改善に努めている。無理強いをしない支援、利用者本位の支援に努めている。	前年度の目標達成計画として取り上げ、このテーマを日々の暮らしの中で、個別対応でゆっくり話を聞き、把握に努めている。今回、発言、発語の少ない利用者から、「思い」を聞きだし、実践につなげた事例がある。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や状況を、利用者や家族、担当ケアマネの情報をもとに職員間で話し合い、共有し手いる。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話、表情の変化、バイタルチェック、食事の摂取量等で状況を把握し、利用者の意思を確認、尊重しながら支援を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が、毎日の記録からカンファレンスシートを作成し、ケース検討会で話し合い3ヶ月毎にプランを立てている。利用者、家族、他職種の意見も取り入れるよう努めている。	利用者、家族、職員、専門職の意見を活かした「その人らしい暮らし」を目指した介護計画作りに努めている。プライドを傷つけないよう配慮しながら、利用者本人にも分かりやすく説明を行い、同意をもらっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌や毎日の個人記録に記録し、変化や注意が必要な事項については、その都度、また朝のミーティングで話し合い情報を共有し、実践、改善していくよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事作りの一部委託により、利用者と一緒に過ごす時間が多くなり、個人が好きな事が出来るようになった。コンサートや芝居見物、歌や大正琴、大工仕事など趣味を楽しむ事が出来るよう支援している。		

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小学校や幼稚園との交流、市の行事への参加、老人会の友愛訪問、月1回の地域の障害者施設との交流喫茶等を行っている。併設の特養に出かけ、歌や演奏などを披露し、顔なじみの関係が出来ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、入居前のかかりつけ医の受診を基本としている。医師の助言等を日々の支援に取り入れている。	受診は、家族同行受診を基本とし、都合のつかない場合は、職員同行で行っている。週に1回、同一敷地内の施設に訪問診療に訪れる内科、精神科医師に、適宜、利用者の医療面での相談をし、助言を受けている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタルチェックを行い、その日の様子を併設特養の看護師に報告し、異常時は医師に相談し、適切な助言を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の生活状況や医療情報を共有し、主治医とはすぐに連絡、対応出来るよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や機会ある毎に、緊急時や重度化した場合の対応について家族の意向を確認し、関係職員で話し合い周知している。	重度化や終末期については、家族や利用者との話し合い、病状や状況に合った療養・介護事業所への移行支援を行う方針を持ち、退所後も継続して面会や訪問を行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制の確認、対応について定期的に話し合い緊急時に備えている。年1回救急法の研修を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、併設特養との合同避難訓練を行い、協力態勢を整えている。消防署の指導のもと火災時通報訓練、消火設備の使用方法、緊急時の非常呼集訓練、また地元消防団との合同避難訓練を行っている。	毎月の避難訓練は、様々な想定で避難誘導訓練を実践しており、職員の非常呼び出し訓練も行われている。事業所内に3日分の食料備蓄も出来ている。	

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人として接することを基本とし、排泄や入浴等本人の意思を尊重し、無理強いない支援を心がけている。居室に入る時もノックや声をかけている。	介護度1～2の利用者が多く、日常支援時の声掛けや見守りの配慮を職員間で統一し、誇りを損ねない対応に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の様子や会話の中から思いを聞き、本意を理解し、職員間で情報を共有、支援するよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで過ごしている。食事はその人の時間やペースに合わせている。利用者がそれぞれ別の趣味や遊びが出来るよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好きな服を選べるよう支援している。髪カットは家族と美容院に行ったり、施設に訪問する美容師には自分の希望が言えるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや食事の取り分け、配膳、お茶の準備など、利用者が自分の役割として行っている。片付けや、テーブル拭き、お盆拭き等も進んで行っている。また、漬け物、干し柿、焼き芋、季節の食材など収穫し、料理して食べている。	朝食と昼夕の副食1品を、手作りしている。毎週火曜日の昼食は、外食や利用者の得意な手作りの食事を楽んでいる。食事の前後の準備や取り分け、配膳を職員、利用者で手分けしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設特養の管理栄養士の管理の下、バランスを考えたメニューとなっている。水分量が少なめの利用者には、他の飲料を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけと、一部介助を行っている。毎月1回歯科衛生士による口腔ケアと衛生指導を行っている。歯科受診はかかりつけの歯科医院を受診している。		

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で本人のパターンに添った排泄誘導や声かけを行っている。声かけや誘導の仕方を職員間で話し合い、その人に合った支援を心がけている。	利用者全員がトイレでの排泄を行っている。リハビリパンツの利用から布パンツへの改善例も多く、日中は、利用者6名が布パンツを利用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で排便の様子を確認し、体操や散歩等身体を動かしたり、水分やヨーグルト、食べ物で改善に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は本人の意思を確認し、希望に沿うようにしている。毎日入る利用者も多い。声かけや介助の仕方を職員間で話し合っている。	毎日午後が入浴時間となっており、9名の利用者の内、4名が毎日入浴している。少なくとも週に3日の入浴支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でお昼寝をしたり、リビングで休憩する利用者もいて自由に過ごしている。室温や布団の調整等、本人の訴えに沿って支援を行っている。敷毛布やあんか等も個々で使用している。就寝時間はそれぞれで違っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容は、薬局からの薬情報で効能と注意書きに目を通し、ファイルしている。すぐに確認出来る場所に設置、変更があった時はその都度連絡、周知している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理、歌、大正琴、数字のゲーム、ボール遊び、習字、大工仕事等、多趣味の利用者が多く、それぞれが得意な事を楽しめる環境作りに努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や外出支援を行っている。個別の外出や家族との外出、施設回りで体操やうた、屋外での弁当開きなどを行っている。食材の買い出しには職員と一緒に出かけるようにしている。	日常的に外気浴や散策を楽しみ、利用者の思いに添った様々な場所への個別の外出支援や事業所全体での外出支援が行われている。	

事業者名: グループホーム敬天

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在5名の利用者が現金を持っている。外出時や菓子の販売があるときには自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時にはかけられるようにしている。年賀状や手紙が来た時は返事が出せるよう支援している。携帯電話も持てるように家族と話し合っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に移動が出来るように動線に物を置かないよう心がけている。季節の花や写真、外の風景などが心地よく感じられるよう努力している。	共有空間には利用者の笑顔一杯の写真や作品が掲示され、リビングでは利用者が思い思いの場所で、屋外の景色や訪れる野鳥に見入ったり、ゲームを楽しむ居心地の良い共有空間づくりが行われている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は食堂やリビングで過ごされている。日向ぼっこが好きな利用者や居室で昼寝をする利用者など、利用者同士が仲が良く、お互いに話し合いながら居場所の工夫をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や仏壇、電気スタンドなどを持ち込み、落ち着ける自分らしい部屋で暮らせるよう支援している。	入居時に使い慣れた物や道具の持ち込みを説明し、事業所での生活開始後も、利用者とのコミュニケーションから知り得た情報で馴染みの物や家族と相談し、居心地の良い居室づくりに努めている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、洗面台やトイレの高さは使いやすいよう設計になっている。浴室、トイレは車椅子で対応出来るようになっている。トイレの位置もわかり易い様に工夫している。		